

PIVKA- II		2191000			
		担当部署			
PIVKA-II		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		ビタミン K 剤を投与された患者検体では、PIVKA- II 量が減少することがある。 ビタミン K 拮抗剤(ワーファリン等)及び抗生物質の投与により PIVKA- II 量が上昇することがある。			
検査受付時間		8 : 15~16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤	8	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 5)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		33.3 mAU/mL 以下 A I A - パ ッ ク C L P I V K A - II 添付文書			
臨床判断値		設定なし			
基準値					単位
					mAU/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
0	33.3	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		<p>PIVKA-II は、血液凝固第 II 因子であるプロトロンビンの肝における生合成不全に由来する異常蛋白である。</p> <p>プロトロンビン合成の最終段階は、前駆体 N 末端近傍グルタミン酸残基のビタミン K 依存的なカルボキシル化反応による Gla(γ-carboxyglutamic acid residue)への転換にある。</p> <p>この反応過程の失調または欠落に基づく「異常プロトロンビン」は、凝固活性を欠いた蛋白として血中に放出される。</p> <p>新生児メレナをはじめとするビタミン K 欠乏性出血症の診断にこれが有用な指標となることは以前から知られていたが、1984 年に Liebman が肝細胞癌患者血中に PIVKA-II の高率かつ著明な増加を報告したことを契機に、α-フェトプロテイン(AFP)と相関性のない全く新たな肝細胞癌の特異的マーカーとしての臨床的意義が確認されている。</p> <p>三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第 4 版 326</p>			